

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成28年10月27日 (2016.10.27)

【公開番号】特開2016-80023(P2016-80023A)

【公開日】平成28年5月16日 (2016.5.16)

【年通号数】公開・登録公報2016-029

【出願番号】特願2014-210058(P2014-210058)

【国際特許分類】

F 1 6 F 9/56 (2006.01)

F 1 6 F 9/32 (2006.01)

F 1 6 F 9/38 (2006.01)

【F I】

F 1 6 F 9/56 A

F 1 6 F 9/32 K

F 1 6 F 9/38

【手続補正書】

【提出日】平成28年9月9日 (2016.9.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

一端からピストンロッドが延出するチューブと、

前記チューブにおける前記一端側の端部に設けられ、筒部の外周面に係止部が形成された有底筒状のキャップ部材と、

前記ピストンロッドの先端側に設けられ、筒部の内周面に前記係止部に係止される被係止部が形成された有底筒状のカバー部材と、
を備え、

前記カバー部材の前記被係止部が前記キャップ部材の前記係止部に係止されることで収縮状態に保持される、

ことを特徴とするショックアブソーバ。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のショックアブソーバであって、

前記係止部は、軸線方向に延びる縦溝部と前記縦溝部に連なって周方向に延びる横溝部とを有する凹部であり、

前記被係止部は、前記カバー部材の前記内周面に形成された凸部であり、

前記カバー部材の前記凸部を前記キャップ部材の前記縦溝部に進入させて前記横溝部に移動させることで前記凸部が前記凹部に係止される、

ことを特徴とするショックアブソーバ。

【請求項 3】

請求項 1 に記載のショックアブソーバであって、

前記係止部は、前記キャップ部材の前記外周面に形成されたおねじであり、

前記被係止部は、前記カバー部材の前記内周面に形成されためねじであり、

前記カバー部材の前記めねじと前記キャップ部材の前記おねじとを螺合させることで収縮状態に保持される、

ことを特徴とするショックアブソーバ。

【請求項 4】

請求項 2 に記載のショックアブソーバであって、
前記縦溝部は、前記キャップ部材の底部まで延在する、
ことを特徴とするショックアブソーバ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

第 1 の発明は、ショックアブソーバであって、チューブの端部に設けられ、筒部の外周面に係止部が形成された有底筒状のキャップ部材と、ピストンロッドの先端側に設けられ、筒部の内周面に被係止部が形成された有底筒状のカバー部材と、を備え、カバー部材の被係止部がキャップ部材の係止部に係止されることで収縮状態に保持されることを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

第 3 の発明では、ショックアブソーバの収縮作動時において、カバー部材のめねじがキャップ部材の頂面に当接するまでショックアブソーバをストロークさせることができる。

第 4 の発明は、縦溝部は、キャップ部材の底部まで延在することを特徴とする。